

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年11月9日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.165】

岡崎国家公安長が松崎氏は「革マル派の幹部」と国会で答弁！

11月8日の衆議院予算委員会で自民党平沢勝栄議員が質問に立ち、岡崎トミ子国家公安委員長に対し、革マル派創設者であるJR東労組元会長の松崎明氏と同派との関係や、松崎氏の側近であったJR総連組織内の民主党・田城郁参議院議員が、松崎氏とともに横領事件に関する家宅捜索で国家賠償を訴えていることなどに関する認識を質した。

(平沢議員) 革マル派、極左暴力集団は、いろんなテロをやってきました。革マル派について民主党内閣は、共産主義革命を起こすことを究極の目的にした極左暴力集団だということを言いました。今はテロをやっていないけれども、いろんな団体とか組織に浸透しようと、そういうことを考えている集団であるということを、質問主意書に対する答弁書で答えられたわけでございます。この革マル派の中で、たとえば、JR東労組の委員長などを歴任した松崎明さん、この方は、革マル派の創設者の一人、最高幹部の一人であると見てよいのでしょうか。(岡崎国家公安委員長) 幹部の一人であると思っております。(平沢) 革マル派の幹部の一人と答弁されました。大変なことなんですよ。なぜなら、この松崎明さん、今、革マル派の最高幹部のひとりであると国家公安委員長言われました。その方の運転手をしていた、側近中の側近をしておられた方が、今、民主党の参議院議員の田城郁さんなんですよ。それは岡崎大臣、ご存知ですか。(岡崎) 個人の情報に関することでございますので、コメントは差し控えさせていただきます。(平沢) いや、これは大変なことなんですよ。民主党内閣が革マルというのは極左暴力集団、大変な集団であると答弁書で言っているわけです。そして、その革マル派の最高幹部の一人が松崎明さん。その運転手、側近中の側近だった人が民主党の公認で国会議員をやっている。このことについてどう思われるんですか。革マルが民主党に浸透してくると、そういうことにならないですか。(岡崎) 国会議員は国民の皆さんに選ばれたわけでございます。いずれにしましても警察は、もし違法行為が行われれば、あるいは、その恐れがある場合には、必要な情報を収集して、法律に基づいて厳正に対処することにしております。(平沢) こういう問題というのは、やっぱり公党ですから、私は説明責任があると思います。関係が全く無くなっているのなら無くなっているでいいんです。やっぱり疑いは持たれますよ。側近中の側近だったんですから。それから数年前に、警視庁が革マルの関連した横領事件で家宅捜索をやりました。そうしましたら、田城議員、先ほど革マル派の最高幹部と言われた松崎明さんと一緒になって、国と東京都を国家賠償で訴えているんですよ。一緒にまだ活動しているんですよ。それでも関係ないと、国民から選ばれたからいいと言われるんですか、大臣。(岡崎) その問題につきましては報告を受けておりません。(平沢) 国家公安委員長、もっとしっかりして下さい。国民が不安を持っている。関係ないなら関係なくなったでいいんですよ。きちんと国民に説明していただきたい。よく調べておいて下さい。...(中略)...(岡崎) 先ほどの議員のご質問に対してですけれども、松崎氏に対して、革マル派創設時の幹部の一人である、というように訂正をさせていただきます。(平沢) 創設時でも今でも、変わらないという見方は多いんですが、まあ、それはもういいです。

田城議員についても名前を挙げて革マル派との関係を追及！

岡崎国家公安委員長は、松崎氏を革マル派の最高幹部のひとりと認識しているかとの質問に「幹部の一人であると思っております」と答弁し、その後「革マル派創設時の幹部の一人」と修正した。JR総連組織内の田城参議院議員の革マル派疑惑の追及も含めて、非常に興味深い審議であった。上記の内容については、次号であらためて検証したい。